

# カトリック八尾教会ニュース



## 2024年5月

こんげつ よてい  
【今月の予定】

じかん  
ミサの時間

せいぼづき  
【聖母月】

### Tháng năm

5日(日)復活節第6主日	7:00
世界広報の日	10:00
12日(日・祭)主の昇天	7:00
	10:00
18日(土)子ども会	14:00
信仰講座	16:00
19日(日・祭)聖霊降臨の主日	7:00
	10:00
ベトナム語のミサ	15:00
20日(月)教会の母聖マリア	-----
26日三位一体の主日	7:00
	10:00
【平日のミサ】 木曜日	10:00

しんとそうかい  
信徒総会(10時ミサ後)

びょうしゃ  
病者のための祈りの集い

こ  
子どもとともにささげるミサ(初聖体志願式)

やす  
9日、16日(2日、23日、30日はお休み)



## ■「社会の福音化をめざすキリスト者のつどい 2024」のご案内

しゅ へいわ  
†主の平和

わたしたちは2023年10月より大阪高松大司教区として新たな歩みを始めました。旧大阪教区では、1995年に設立した新生計画「交わり証しする教会」の精神にもとづき、神の国の実現を祈りながら、社会福音化の活動を進めて参りました。またその取り組みが確かなものとなるように、1年間の活動を感謝のうちに振り返り、学びと分かち合いを行うつどいを毎年行ってきました。

今年には特に、新教区の設立に伴い、旧高松教区の方がたとともに、希望をもって新たな一歩を踏み出せるように、以下のつどいを開催します。みなさま、どうぞ奮ってご参加ください。

### ご案内

開催日： 2024年5月25日(土)13時~16時半

※対面とオンラインと両方の参加可

参加対象：社会活動委員会をはじめ、社会福音化のための活動に携わっておられる方ならどなたでも参加出来る

場所： 大阪高松教区本部事務局 一階ホール

テーマ： 「苦しむ人々の声に耳を傾け応えていこう」

申込み： 5月13日(月)必着

申込用紙を下記までお送りください。(ご欠席の場合もお送りください)

※メール、FAX、郵送いずれも可

〒540-0004 大阪市中央区玉造2丁目24-22

カトリック大阪高松大司教区社会活動センターシナピス

☎06-6942-1784 FAX06-6920-2203

E-mail: sinapis@osaka.catholic.jp (◎を@に変更して入力してください)

※この「つどい」に交通費の支給はありません

<※どなたでも参加できます。

詳しくは、社活の江見まで>

むしろラジオが聞きたくなる時がある。主にスポティファイで音楽を聴いているので、勧めの曲やよく聞いている曲をバンドルしてくれる機能もあり、他に音楽ソースを探さなくても聞き足りる。しかし、ある日、突然、いきなり、ラジオが欲しくなる。正確には人間の声が欲しくなるのだ。それもライブで流れる声を！最近、ラジオで時々ラジオを聴くようになった。音楽よりはトークを中心にする番組を主に聞く。甲高い、鼻にかかったような声、軽薄な声は大嫌いで、聞き堪えない。地声で、飾り気のない声の方がずっと、もっと好きだ。体と心あるいは精神は実に一つで、自分の体が一切余計なものを受け付けられないのと、余計な且つ大げさな話し方や音（これを声とは言わないことにしよう。）に一秒たりとも侵されたくないのだ。人間の声は自分を表すもので、声を飾ること自体が不自然で不純な狙いが含まれていると感じてしまう。それに、声には持ち主の色が深く滲んでくるし、そのはずだ。自分を、結構ぶつきら棒な人間だと感じる。何故なら、自分の声を通して伝わっていく感情を隠そうとしないからだ。つまり、とても分かりやすい人間なのだ。ああ、この人、怒っていると思わせる声を普通に発声する。それは何故だろうか。親しい友人は、あなたは常に怒っていると笑顔でしかし真剣に言ってくる。実に見事に、わたしの本質を見抜いたものだ。お蔭で自分への理解が深まったわけだ。そうだとすると、何に怒っているのだろうか。醜悪、つまり美しくなさ、醜さがそれだろう。これは容貌やルックスのことではない。人間の振る舞い、言葉遣い、態度等の類で、言い換えると道徳と深く関わっている領域のものだ。怒りはぶつかり合いから発生するので、わたしの美意識という眼鏡に、誰かの振る舞いが、態度が、言葉遣いが、そうだ。声もだ。それらが引かかかってきたためなのだ。人間は物理的な存在であると同時に、抽象的な領域を生きていて、物理的な方だけを極めてしまうと、本人の欲望や意志のみに振り回されがちで、その結果、醜くなってしまう。ただ、それに本人が気づいてないだけだ。抽象的と言ったが、言い換えると、高尚な領域とも言える。犠牲、他人を優先する態度、思いやり、優しさ、節度および謙遜等。この類の徳目は数も多いが、一つの共通点がある。自分というものが中心ではなく、他の人のことが判断の基準に据えてあるのだ。矛盾するのでは？との質問が、突っ込みがあるだろう。だって、あなたは自分の感情を、怒りを隠そうとしないくせに、人を思いやっているとかが言っているのかと。そうだ。しかし、そうではない。人を思いやることは、面前でただ優しい声を飾り、感情を抑え込めて何もなかったように振る舞うことではない。人間はお互いコミュニケーションを取り合い、影響を与え合い、その結果、時には傷を与え合う存在であって、それが人間生活の現実なのだ。余計に、不自然にも親切を装うことは、またそうせざるを得ない社会的な雰囲気、プレッシャーは人間を悩ませ、病に落とすのだ。むしろラジオが聞きたくなるが、流れてくる偽りの音に呆れてしまう、腹が立つほど！長い間、ラジオを忘れる。しかし、また突然ラジオが聞きたくなる。そうだ。人間への希望を捨てきれず、希望のあまり、人間の声欲しいからだ。続けて失望するが決して諦めはしない。人間を信頼し続けたイエス様。あの方の弟子であるから。あの方の生き方を真似したいから。真実を生きることが本物の幸せだから！

